

ライフサイエンス委員会報告書（H18.5）指摘課題への対応策(案)

情報・システム研究機構事務局

問題点

- (1) 長期的かつ国家的視点に立った戦略を立案する機能および実行に移す体制が不足。
- (2) データベースが散在し、所在情報が不十分。また、用語の体系化もなされていない。
- (3) データベースを継続的に運用していくための維持費用の確保が困難。
- (4) 大型プロジェクトの成果の公開が進んでいない。また、日本語化未対応、データの解析・解釈不足等による産業界等の利用者の利用が困難。
- (5) シミュレーションなど関連研究との連携が希薄。
- (6) データベース作成、維持、質の向上等のための人材が不足。

取り組むべき課題

課題への対応策

- (1) ライフサイエンス、バイオ産業全体を見渡し、国家的視点に立った戦略立案・実行を可能とする体制の整備。
- (2) 統合化されたデータベースの開発、そのための技術の研究開発・体制の整備。
- (3) データベースの所在情報、利用法などが分かるポータルサイトの構築・運用。
- (4) 実験データと文献に書かれた知識を対応させる仕組みの確立。及びデータに生物学的医学的な注釈付けを行うことによるデータベースの付加価値の向上。
- (5) データベース開発の支援体制整備とデータベース利用技術の研究開発促進。
- (6) データベースの構築やデータの注釈付けを行える人材の育成。
- (7) DNA配列やタンパク質立体構造のような基盤的なデータベースを安定的に支援する体制の整備。
- (8) プロジェクト終了後のデータベースを受け入れ、維持管理するための体制の整備。

- (1) 統合化およびデータベース利便性向上のための動向調査と戦略立案。
- (2) 統合化データベースの開発。
・ヒト統合化データベース
・モデル生物、産業応用生物統合化データベース
- (3) ポータルサイト運用、高度検索サービスの提供。
- (4) 基盤となる情報技術の開発。
・文献等からの知識獲得技術
・統合化、標準化、相互運用技術
- (5) 広報、教育、国際対応、産学連携の推進。
- (6) 各種支援業務体制の構築。
・基盤データベースの支援
・プロジェクトデータベースの受け入れ
・新規データベースの開発支援
・契約、知財関係の管理、処理
・計算機システムの構築、維持

課題解決によりもたらされる効果

- (1) 我が国のライフサイエンス関係データベースの格段の利便性向上。
- (2) その結果としてのライフサイエンス分野の学術的発展とバイオ産業の競争力強化の実現。
- (3) 継続的な情報提供を実現できる組織的、技術的、および人的基盤の確立。